# 令和七年　消防局長　年頭訓示

大阪市消防局長

橋口　博之

新年あけましておめでとうございます。令和7年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年を顧みますと、1月1日に令和6年能登半島地震が発生し、北陸地方に甚大な被害をもたらしました。また、9月には復興へ向けて歩みを進めていた石川県を記録的な大雨が襲い、河川の氾濫や土砂災害等により、多くの尊い命が失われました。

この2つの災害に対して、当局からも緊急消防援助隊を派遣しましたが、過酷な現場環境の中、いずれの派遣活動においても被災地に寄り添った懸命な活動に徹し、負傷者を出すことなく活動を終えることができたことは、職員皆さんの日頃からの災害に対する訓練などの備えはもちろんのこと、ご家族をはじめ支えてくださった方々のお力添えがあってのことと存じます。この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

さて、大阪市内に目を向けますと、うめきた（大阪駅北地区）の再開発や令和12年の開業を目指す夢洲地区の統合型リゾートの開発など、新たな賑わいの拠点が次々と生まれます。

夏場の猛暑や物価高騰など市民生活も大きく変容しておりますが、私達消防は市民サービスを安定的に供給するため、消防体制の強化、業務の効率化など「進化」が求められています。

現在、当局においても行政サービスのオンライン化など、デジタル技術活用を目的としたＤＸ機器の導入や、最新鋭の機器と新たな消防情報システムを備えた消防指令情報センターの運用を控え準備を進めています。今年4月には松原市との消防指令業務の共同運用を開始するなど、連携・協力も推進しているところです。

また、発展するベイエリアへの消防力整備や地域住民・企業の災害対応能力の向上を図る施設整備も検討しており、自助・共助・公助それぞれの防災力の向上を図ることにより、市民が安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」を目指しています。

そして、いよいよ今年の4月13日から10月13日の１８４日間、此花区の夢洲において「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」が開催されます。会場には、世界１５０か国を超える国々の英知が結集され、未来に向けた技術やサービスを紹介するパビリオンをはじめとする、様々なイベントが準備されています。当局としても、2月から全面的に運用を開始する大阪・関西万博消防センターの設置をはじめ、万全の消防体制で臨んでまいります。

この万博は「いのち」をテーマに掲げ、世界がひとつの「場」に集う機会となります。この万博をきっかけに多様な価値観が交流し合い、新たなつながりや創造を促進し、様々な危機を乗り越え、いのちの在り方や生き方を見つめ直すことで未来への希望を世界に示すことを目指すものです。

私達消防も、市民・同僚をはじめ他者を思いやる心と仕事への誇り、そして情熱を持って日々の業務に取り組み、知恵を出し合いながら更なる「進化」を目指し、発展する大阪にふさわしい消防組織の実現に取り組んでいきましょう。

横山市長から伝えられた今年の市政方針にもあるように、消防局では、今後ますます発展が見込まれる大阪にふさわしい消防組織の実現のため、令和7年大阪市消防局重点目標として、引き続き3つの項目を掲げています。

**1つ目は、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」です。**

いかなる場合も安全を最優先とする組織風土への転換、そして「組織全体でより高いレベルの「安全文化」の醸成を目指してきましたが、昨年の職員負傷の発生状況を顧みましても、「文化の醸成」にはまだまだ取組が必要です。職員一人ひとりがこれまで以上に安全意識を高めて、これを習慣としていく必要があります。絶対に一人の職員も負傷させないという決意を新たに、職務を遂行してください。

**2つ目は、「業務改善の励行」です。**

万博の開催や大阪ＩＲの開業、また少子高齢化の進展による生産年齢人口の減少など、これからの大阪を取り巻く社会環境は大きく変わっていきます。この変化に対して、消防組織としても、これまでの慣習や前例主義に縛られない新たな視点に立った取組が求められ、そのためには、職員一人ひとりが自発的に日頃の業務のやり方を見直し、組織全体で改善に取り組む風土の醸成が必要です。

社会変容に対応し、より効率的で質の高い消防行政サービスを提供すべく、引き続き、職員一人ひとりが、その職務において業務改善を励行してください。

**3つ目は、「『人』を想う人材育成の推進」です。**

市民の信頼と期待に応えるためには、市民が求めるものを感じ、考え、理解した上で最適な消防行政サービスを提供していく必要があります。そのためには、決して自分本位に行動するのではなく、市民はもちろんのこと、共に働く同僚や上司、後輩といった仲間のためなど、常に自分以外の「人」を想い、「人」のために汗をかき、尽力できる職員であり続けなければなりません。すべて職員は、自身の立場と役割に求められているものを常に意識し、「人」のため日々たゆまぬ研鑽に励み、各所属においては「人」を想い、輝ける消防職員の育成に努めてください。

以上の3つの項目を重点目標として、大都市・大阪に暮らし、訪れるすべての人の安全・安心を担う組織として、職員が一丸となって、市民の「信頼と期待」に応え続けていきたいと思います。

**結びに。**

昨年は、日向灘で発生した地震に際して南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表され、大規模地震の危機が確実に迫ってきていることを改めて認識したところです。また、関東大震災から１００年が経過し、本年は阪神・淡路大震災から30年を迎える節目の年となりますが、引き続き、市民生活に安全と安心を届けることができますよう、消防使命達成への決意を新たに日々の業務に邁進されることを切にお願いしまして、令和7年の年頭訓示とします。今年もよろしくお願いします。

# 令和７年
# 大阪市消防出初式

令和７年１月５日（日）

職務

# 秋の火災予防運動 オープニングイベント

市民の皆さまに火災予防や災害への備えなどについて再認識していただくための秋の火災予防運動（11月9日～11月15日）にあたり、令和6年11月9日（土曜日）、天保山ハーバービレッジ（海遊館及び天保山マーケットプレース）において、秋の火災予防運動オープニングイベントを開催しました。

当日は、大阪府立大手前高等学校書道部の皆さんを火災予防一日PR大使としてお迎えし、書道パフォーマンスを披露していただきました。また、予防課（調査鑑識）による出前講座（火災実験）、消防ヘリや大型ブロアーによる火災想定訓練、訓練用消火器による消火体験等で、来場された皆さまに火災予防を再認識していただきました。

## なぜ書道パフォーマンス？

印象に残る形で「火の用心」を幅広く伝えたい！

多くの方が子どもの頃から親しみがあり、視覚的なインパクトもある書道パフォーマンスで全ての世代へ印象に残る「火の用心」を訴えかけようと考え、「静岡書道パフォーマンスアワード 2023」で銅賞を受賞されている大阪府立大手前高等学校書道部に協力を依頼しました。

## ステージイベントで伝える「火の用心」！

大阪府立大手前高等学校書道部のパワー溢れる書道パフォーマンスからステージイベントが始まり、縦３ｍ×横４ｍの特大半紙に令和６年度大阪市防火標語と「火の用心」への学生たちの想いを揮毫（きごう）していただきました。

パフォーマンス終了後には作品をステージ上へ掲出し「火災予防一日PR大使」任命式を実施しました。

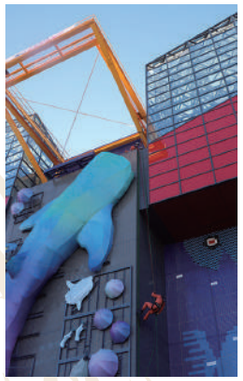
書道パフォーマンスに続き、ステージではトラッキングやカセットボンベからの発火実演を交えた出前講座を実施し、来場された皆さまに、日常生活で起こりえる火災の危険性について分かりやすく伝えました。

職務

## 海遊館からの出火を想定した火災想定訓練

海遊館の屋上から煙が発生
消防ヘリ（なにわ）が上空を
旋回し情報収集

大型ブロアーを用いた
大量放水による消火



ジンベイザメモニュメント横を懸垂降下で緊急脱出

## 消防体験コーナー

消防体験コーナーでは、大型ブロアーや子ども防火衣を着用して記念撮影ができるミニ消防車の展示、訓練用消火器による消火体験等のブースを設けました。

また、火災に関するクイズに答えていただいた方に火災予防一日PR大使からキーホルダーをプレゼントし、火の用心に対する関心を深めていただきました。

## 天保山大観覧車で「秋の火災予防運動」をＰＲ

令和６年11月９日（土）から11月15日（金）までの秋の火災予防運動実施期間中、天保山大観覧車に令和６年度大阪市防火標語「言うたやん　燃えたら消える　思い出も」を映し出し、「火の用心」を広報しました。

大観覧車へ映し出した様子はこちら ↓

## さいごに

今回の秋の火災予防運動オープニングイベントでは、書道パフォーマンスなどのステージイベントや消防体験コーナーでの消火体験などで、参加いただいた多くの市民の皆さまに、「火の用心」の大切さを伝えることができました。

３月１日からは、春の火災予防運動が始まります。今後も、市民の方々へ「火の用心」の大切さを伝えることができるよう、努めて参ります。

書道パフォーマンスの作品は、令和７年１月31日まで 消防局１階正面玄関に掲出し、多くの方々にご覧いただきました。

# いっしょに、いこな！　＼2025年 大阪・関西万博／

## 開催まであと６７日です!!

※（令和７年２月５日現在）

**みなさん、こんにちは！**

大阪・関西万博の開催まで2か月余りとなりました。

この記事をご覧になっている皆さんはきっと、大阪・関西万博の開催を今か今かと待ち遠しく感じていることと思います。

これまでの大阪消防の記事で、大阪市消防局の消防体制について幾度となく触れてきましたが、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」に則して取り組んでいるものの一つに、株式会社モリタホールディングス（以下、「モリタＨＤ」という。）との共同研究開発があります。

今回はモリタとの共同研究開発の取組について紹介したいと思います。

### 株式会社モリタホールディングスとの連携協定

モリタＨＤは、大阪・関西万博の安心安全に寄与するため、最新鋭の消防車両等の協賛と併せて、今回の万博を契機として未来社会における最適な消防活動の実現を目指しています。

一方、当局も、大阪・関西万博に来場する方々をはじめ、大阪市民の安全安心を確保するには、従来の消防活動からさらに一歩進んだ消防活動を検討し、実践していくことが重要と考えており、そのことが大阪市をさらに「災害に強いまち・安全な都市」にすることと感じていたところです。

大阪・関西万博をきっかけに、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」にふさわしい消防活動を実現すべく、また、人々の命を守るというお互いの最大の目的を実現するため、当局とモリタＨＤは連携協定を締結しました。

提供：２０２５年日本国際博覧会協会

### 共同研究開発について

連携協定を締結して、現在モリタＨＤと取り組んでいる主な内容は次のとおりです。

1. **災害現場活動の最適化に向けたシステム開発と検証**
2. **消防隊員の安全性向上に向けたシステム開発と検証**
3. **ＥＶ火災に対する安全で効率的な消火戦術及び機器の研究**
4. **ＥＶ消防車両の実用化に向けた研究と開発**

未来消防にふさわしい消防活動実現のため、今日この日にも未来へ想いを馳せながら共同研究開発を続けています。

次回も引き続き、モリタＨＤとのより具体的な取り組みについてご紹介したいと思います。

### おわりに

今回はモリタＨＤとの協力体制について紹介いたしました。

「人々の命を守る」ことはいつの時代も消防が担う最大の責務として変わることはありませんが、それを果たすための方法については社会の変遷とともに常にアップデートし、最適な手段を見つけ出す不断の努力が必要不可欠であると大阪市消防局は考えています。

また次号でお会いしましょう。



# No more！事故

## ～撲滅への道～

119番通報を受けた際、安全かつ迅速に出場することで、いちはやく災害現場へ駆けつける消防車両。
消防車両は、安全に現場へ到着してこそ、最大限の活動が実施できます。
このコーナーでは、各署で実施している交通事故防止への様々な取組や対策を紹介していきます。
今月は、住之江消防署の取組について紹介します。

住之江消防署　交通事故防止推進チームのメンバー

### 住之江区の通行ポイント

住之江区は、東西に広く、大阪市内で最大の面積（2068㎢）を有しています。区内は、住宅地域特有の狭隘な道路から工業、商業地域などの広い道路まで様々な道路があり、乗用車のみではなく大型車の往来も非常に多い地域です。

その中から今回紹介したいのは、南港地区の住宅地域『南港ポートタウン』です。南港ポートタウンの面積は1㎢（京セラドーム約30個分）で、敷地内には共同住宅が約60棟、その他に商業施設や教育施設があります。全域が原則『ノーカーゾーン』として進入車両は限られており、道路は片側1車線で時速20kmの速度制限が設けられていますが、停車車両などが多いため通行には注意が必要となります。緊急執行の際、特に注意しないといけないのは、走行車線と反対車線ともに停車車両があり、その死角から車両が走行してくることがあるため、車内ではコメンタリードライブを徹底するとともに、マイクを活用した注意喚起を積極的に行っています。

さらに、この地域への車両進入路は『東側ゲートの一箇所のみ』となっていますので、南港地区への災害出場の際は特に注意してください。

ポートタウン内停車車両（通行時の注意点）

### この車、動かす時、気を付けて

住之江署管内の常備配置車両はCC、ST（STR）、R（CR）、L、Aに加え、RE1台（中型）、C1台（大型）、RW2台（大型）、BRT1台（大型特殊、小型船舶）、FB1隻（小型船舶）です。各隊が特殊車両などに乗り換えて運用していますが、車両ごとに特性やサイズ感、運用時の注意点などが異なります。その中でも気になる存在は、やはりBRT【大型水陸両用車：レッドヒッポ】でしょうか。ここで少し紹介します。

BRTは2両編成、キャタピラー走行。最高速度は陸地で時速65㎞、水上で時速3.5㎞。最大登はん角度は固い斜面で31度、雪上や横方向で16度。高さ50㎝の障害を越え、1mの溝もなんのその。最小回転半径6.5mでくの字に曲がり小回りもききますが、そのぶん死角が多いです。くの字に曲がった車体の影などは覗き込んでも見えませんし、バックでの切り返しなどは特に難しいです。

では、どうするのか。車両諸元の把握は当然のこと、下車誘導が必要です。駆動音が大きいため、無線などを使用して誘導します。隊員間の相互理解、意思疎通が重要ですが、これはどの車両にも共通していますよね。やはり必要なのは「みんなの声」です。コミュニケーション、大事にしていきましょう！

**住之江消防署の取組**

訓練中のレッドヒッポ

### 交通事故防止への取組

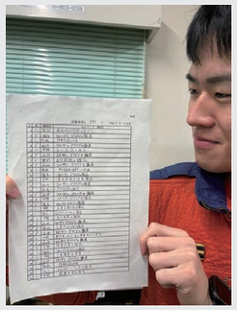
住之江消防署における交通事故防止は、活力ある職場推進チーム内の交通事故防止推進チームが主となって取り組んでいます。

令和5年度には2つの項目について重点的に取り組みました。1つ目は、各注意ポイントにおけるコメンタリードライブ実施例の動画作成、2つ目は管内危険箇所マップの作成です。動画は、安全を確保したうえで実際に走行中の様子を撮影し、文字や言葉だけではなく目で見て確認できる、理解しやすいものを作成しました。この2つの動画とマップを各職員へ配付し、各々が注意ポイントや危険箇所を確認できるようにすることで、交通事故防止を再度徹底するための意識づけを行いました。

令和6年度には新たな取組として、機関員が走行中に隊長、隊員へ伝えたことを記入するための記録簿を作成し、毎当務記入してもらっています。この取組は、機関員が熟練者でも若年層でも意思を発信しやすくするために、職員同士のコミュニケーションを図ることを目的としています。

お互いに伝えやすい環境を作ることで職場の風通しが良くなり、『ちょっと言いにくいなあ』が無くなることで交通事故の発生防止、はたまた、不祥事の撲滅へと繋がっていくのではないかと考えます。

作成された動画の一部



機関員が記入する記録簿

無事故チャレンジ達成日数（令和6年12月末）

| 北 | 都島 | 福島 | 此花 | 中央 | 西 | 港 | 大正 | 天王寺 | 浪速 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 46 | 206 | 48 | 311 | 616 | 351 | 12 | 697 | 87 |
| 西淀川 | 淀川 | 東淀川 | 東成 | 生野 | 旭 | 城東 | 鶴見 | 阿倍野 | 住之江 |
| 184 | 3 | 426 | 323 | 5 | 19 | 240 | 119 | 147 | 654 |
| 住吉 | 東住吉 | 平野 | 西成 | 水上 | | | | | |
| 72 | 2 | 4 | 245 | 347 | | | | | |

### 企画課　服務指導からのコメント

動画を活用した交通事故防止対策は、実際の状況を視覚的に体験できるため、文字や口頭では伝わりにくい情報を理解するのに効果的です。住之江消防署の取組の一つである「コメンタリードライブ実施例の動画」は、走行中に職員が実施すべきポイントや注意すべきポイントを具体的に把握するのに有効であり、さらには、動画を活用することで、交通事故防止対策をよりリアルに感じ、職員の意識を高める効果が期待できます。皆様の所属でも、このような動画を活用した交通事故防止対策に取り組んでみてはいかがでしょうか。